

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 5月22日更新

事務事業名		小中学校情操教育実施事業				☐ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	3	教育の健康				所属部	教育委員会教育部	課長名	右田 純司	
	施策	9	義務教育の充実				所属課	学校教育課	担当者名	齋田 奏子	
	施策の柱	33	徳育の推進				所属班	学務指導班	(内線)	2227	
予算科目		会計一般	款10	項2	目1	事業連番10641 他	根拠法令				
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☐ 28年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 20 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)				
								成果優先度評価結果 : ④ コスト削減優先度評価結果 : ⑨			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	児童生徒の情操が豊かに育まれるよう、映画、演劇等の芸術鑑賞を実施した。
【業務の流れ】	内容の企画立案、契約事務、実績確認事務、観劇料の支払い
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	特になし

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO)		29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
児童生徒の情操が豊かに育まれるよう、映画、演劇等の芸術鑑賞を実施した。		28年度と同様に実施する	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ ア: 小学校で映画等の鑑賞を行った回数		回	児童生徒数の増加に伴う増額
⇒ イ: 中学校で映画等の鑑賞を行った回数		回	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
小中学校児童生徒		⇒ ア: 小学校児童数	人
		⇒ イ: 中学校生徒数	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	
映画や芸術を鑑賞し、心豊かな児童生徒になってもらう。		⇒ ア: 映画や芸術を鑑賞した児童の割合	%
		⇒ イ: 映画や芸術を鑑賞した生徒の割合	%
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
社会規範が身についている。			全体計画
			～ 年度
			0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込
① 活動指標	ア 回		7	7	7	7	7	7	7	7
	イ 回		3	3	3	3	3	3	3	3
② 対象指標	ア 人		4,219	4,314	4,423	4,453	4,530	4,630	4,730	4,830
	イ 人		1,837	1,878	1,935	1,912	1,990	2,040	2,090	2,140
③ 成果指標	ア %		100	100	100	100	100	100	100	100
	イ %		100	100	100	100	100	100	100	100
投 入 費 用	財 源	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	(A) 事業費計	一般財源	千円	3,319	3,052	4,247	3,970	4,342	4,300	4,500
		(A)のうち指定経費	千円	3,319	3,052	4,247	3,970	4,342	4,300	4,500
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正職員従事人数	人	1	1	3	1	3	3	3
		延べ業務時間	時間	100	50	32	40	32	32	32
	(B) 人件費計	人件費	千円	398	185	127	0	127	127	127
		トータルコスト(A)+(B)	千円	3,717	3,237	4,374	3,970	4,469	4,427	4,627

事務事業名	小中学校情操教育実施事業	所属部	教育委員会教育部	所属課	学校教育課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

※原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 各学校とも時期にばらつきはあるが確実に実施されている。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 情操教育の一環として芸術鑑賞事業を実施するものであり、現状を維持していくためには、廃止・休止の影響は大きい。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 学校教育の一環として実施するもので、同一な事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限の事業費である。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限の業務時間である。委託するような業務量ではない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 義務教育の一環であり、一部の個人・団体に利益を生じさせるものではない。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 学校教育の一環であるため。

3 評価結果の総括（CHECK）

小学校では、演劇鑑賞。中学校では、映画鑑賞と作品を選びすぐり鑑賞している。特に小学校での演劇鑑賞は、子ども達にとって貴重な体験になっている。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善（有効性改善）

☐ 事業のやり方改善（効率性改善）

☐ 事業のやり方改善（公平性改善）

☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策